

令和2年9月3日木曜日、遊佐町吉出字金俣国有林にて、「低コスト林業及び労働安全等現地検討会」を開催しました。

この検討会は、森林施業（林業）の低コスト化を推進するため、民国連携推進に係る取り組みの一つとして、林業事業者、県、市町等を参集のうえ、民有林への技術普及を目的とし、労働災害防止に向けた周知・啓発活動を兼ね、毎年度実施することとしています。

当日は、16団体約60名にお集まりいただき、今年度の生産事業請負事業「森林環境保全整備事業（金俣国有林）」にて、带状複層伐を計画している箇所（遊佐町吉出字金俣国有林1012林班な小班）を会場とし、東北森林管理局で推進し、当該事業地で実践中の一貫作業システム（低コスト林業における取り組みの一つ）に係る概要説明と高性能林業機械を用いた伐倒作業（実演）のほか、労働基準監督署労働安全課長による労働災害防止に向けた安全指導、東北森林管理局における低コスト林業に係るその他取り組みの紹介、庄内総合支庁担当者による再生林推進に係る各種制度の紹介などを行いました。

意見交換の場では、带状複層伐の目的や実施方法に関するご質問等もあり、大変有意義な検討会となりました。

今後、民有林においても一貫作業システムの導入など、効率的で安全な作業の推進が積極的に進められることを期待しています。

